

一 般 質 問 通 告 書

令和元年 5 月 22 日

阿見町議会議長 吉田 憲市 様

阿見町議会議員 海野 隆 印

令和元年第 2 回阿見町議会定例会において、次の事項について質問したいので通知します。

質問事項	質問の要旨	答弁者
1、通学路の安全確保及び交通安全対策について	<p>去る 5 月 8 日、大津市の県道交差点で、右折しようとした乗用車と対向車線を直進してきた軽乗用車が衝突、そのはずみで軽乗用車が保育園児らの列に突っ込み、園児ら 16 人が死傷するという痛ましい事故があった。現在の所、事故原因は、右折する際に注意義務を怠り、直進車と衝突、はずみで信号待ちをしていた保育園児らの列に突入し、園児 2 人を死亡させ、園児ら 14 人にけがを負わせたとされている。さらには、各地で自動車の暴走等による犠牲者が連続して起こっている。</p> <p>保護者の方々から、今回の大津市の事故を受け、通学路にある大通りの交差点での信号待ちが不安であるという訴えがあった。そこで、以下の質問をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 町内における最近 5 年間の交通事故数（年代別、死亡、負傷数） 2 平成 30 年度通学路交通安全プログラムの危険箇所対策の現状及び「31 年度以降に対策」とした箇所の進捗状況はどのようになっているか 3 今回の事故を受け国及び県、警察は緊急点検を行っている。町は、民家ブロック塀等も含めた通学路等の緊急安全点検の実施及び「プログラム」の見直しを行っているか 4 子ども達が自らの身をまもる交通安全教育の現状と家庭でできることは何か 5 交通安全対策には危険を回避する自動運転補助技術の進展がカギになると言われており、近年の高齢者運転対策にも有効だと言われている。国は、減税という方法で普及を促進しようとしている。自動運転補助装置等への補助を実施している自治体もある。自動ブレーキ、アクセルとブレーキの踏み間違い防止装置、車線逸脱防止装置など有効な装置があり、新車のみならず後付けすることもできる。阿見町も斬新な発想で助成を行い自動運転補助装置普及を促進すべきではないか 6 自動車を運転するすべての方々、いっそうの安全運転を再自覚する必要があり、「飲酒運転禁止」と同様に町民ぐるみの新たな「安全運転を実践する運動」を行うべきだと考えるがどうか 	町長 教育長

<p>2、入管法の改正を受けた阿見町における外国人労働者、外国人技能実習生の受入と多文化共生について</p>	<p>外国人労働者の受け入れを拡大する出入国管理・難民認定法が改正された。政府は、人口減少や少子高齢化社会の中、持続可能な経済成長などを実現するため女性や高齢者の雇用の拡大策を進めているが、労働力不足が十分に補えていない。また、外国人労働者や外国人技能実習生、アルバイトの留学生が飲食店や製造業、建設業などの現場を支えている現実がある。外国人労働者は、平成 30 年度で毎年増えている。今回の改正を受けて、一気に増加することが予想されている。</p> <p>国会では外国人技能実習生について賃金や処遇の問題点が議論されていた。本来この技能実習制度は開発途上国の経済発展につながるための国際協力、国際貢献の一翼を担うものである。安価な労働力として、非専門的な単純作業の押し付けであってはならない。先進国の進んだ技能、技術、知識を移転する目的で設けられている。</p> <p>日本が増加する外国人労働者を社会として受け入れ、多文化の社会をどのように作り上げていくのかは、地方自治体にとってもきわめて重要な課題である。以下、阿見町としての課題について伺いたい。</p> <p>1 阿見町内の外国人居住数と外国人労働者と外国人技能実習生の就労数及び課題について</p> <p>2 外国人材受入サポートセンターの開設と役割</p> <p>3 阿見町に居住する外国人住民は地域のコミュニティとどのように関わっているのか。行政区への加入や回覧板等の情報、地域行事の参加など、実態と課題について</p> <p>4 災害時の情報伝達や安否確認等の問題と現状の取り組み</p> <p>文部科学省が公表した日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況などに関する調査では、対象となる児童生徒は 5 万人に及び、年々増加している。日本語学習など特別なサポートを受けられない子どもたちは 1 万人以上存在することも明らかになっている。</p> <p>5 阿見町における外国人児童生徒数及び日本語習得などのサポート体制はどのようになっているか。町内小中学校での課題等について</p> <p>阿見町には、外国に生産拠点を持つ有力企業も多く、町内工場で外国人を雇用している企業も多い。また、アウトレット等へのインバウンドの推進も含めて外国人労働者などの受け入れが今後拡大されると予想される。多文化共生社会に対する理解を深め、対応しなければならないと考える。</p> <p>6 阿見町国際交流協会の新体制と役割、町内に立地する大学等との連携も含めて、今後の環境変化に対応した多文化共生に取り組む施策について伺いたい</p>	<p>町長 教育長</p>
--	--	-------------------

平成 年 月 日受領・受付番号

※ 質問の趣旨は、できる限り具体的に記入願います。

※ 電話・FAX等により申し込みはできません。